

# 農業振興計画骨子案

# 計画の位置付け

国

都市農業振興基本法

農業経営基盤強化促進法

小平市第三次長期総合計画基本構想

都市農業振興  
基本計画

小平市産業振興  
基本計画

小平市まち・ひと・  
しごと創生総合戦略

小平市都市計画マス  
タープラン

小平市観光まちづく  
り振興プラン

各分野の個別計画

小平市農業振興計画

東京都農業  
振興プラン

これまでの計画

小平市第二次  
都市農業基本構想

基礎調査

都

2

# 農業の現状

## 第二次都市農業基本構想の基本目標の現状

	平成17年度実績	目標値	平成27年度実績
農家戸数	402戸	382戸	312戸
農地面積	239ha	210ha	194ha
農業従事者数	880人	788人	757人
中心となる農家数	—	123戸	—
認定農業者を 目指す農家数	—	80戸	61戸
農地利用集積率	—	30%	23%

# 農業の現状

## 第二次都市農業基本構想の重点事業の進捗状況

重点事業		進捗状況
認定農業者の育成	◎	認定農業者数H17:0戸→H28:63戸
地域内資源循環のシステムづくり	○	給食センター食品残渣を使用して栽培した農作物を給食センターで使用 学校給食の廃油を利用したトラクターを使用して栽培した農作物を学校給食に納品
販売形態の拡大	○	JA東京むさし小平ファーマーズ・マーケットリニューアルオープン
学校給食への供給拡大	◎	給食納入率H17:21.1%→H28:28.5%
特産品（農産物）の振興	○	ブルーベリーまつり、ブルーベリーワインまつり開催
多様な農業体験の場の提供	◎	体験農園数H17:2園→H28:4園 学童農園数H17:17園→H28:19園(全校)
多様な農地の保全と活用	△	—
関連計画による農地の位置づけ	△	—

# 農業の現状

## 統計データからみられる農業の現状

- ・ 農業経営体数は減少しており、特に1.0ha未満の農家の減少が顕著になっている。
- ・ 専業農家数が販売農家全体の約半数を占めている。
- ・ 専業農家数はやや増加しているが、兼業農家数が減少している。
- ・ 出荷先は直売所を介した直接販売が最も多い。

## 農家調査からみられる農業の現状

- ・ 農業収入が最も多いのは露地栽培で、次いで果樹。
- ・ 販売方法は個人での直売が最も多く、今後行いたい販売方法も個人での直売が最も多い。
- ・ 今後の農地の方向性については、現状を維持したいが最も多く、次いで相続等の税負担のため現状維持は困難。
- ・ 収入は不動産収入に大きく依存しているが、農業収入の増加を望む声は強い。
- ・ 比較的大規模な農家の多くは後継者がいる。
- ・ ワークライフバランスのとれた農業経営を実践、検討している農家も一定数みられる。
- ・ 有機農業や減農薬農業など付加価値の高い農業を行う上での課題は手間や費用がかかること
- ・ 農産物の販売を通じた市民との交流を望んでいる。

# 農業の現状

## その他の基礎調査からみられる農業の現状

- ・市民からは地産地消による新鮮な農産物の供給が最も期待されており、次いで農薬や化学肥料の使用を減らした安全な農産物の供給
- ・市民の多くが定期的に小平産農作物を購入している。
- ・スーパーなどで小平産農作物を購入することに対するニーズがある。
- ・農作業や農業体験へのニーズがある。
- ・自然環境の良さは事業所にとっての立地上の強みとなっている。
- ・企業従業員の小平産農作物の購入ニーズは一定程度ある

# 取り組むべき課題

## 農家、農地の減少を止める

- ・小平市の農家件数や農地面積は減少傾向。
- ・地価の高い東京においては、相続税をはじめとする税負担が不動産収入に依存する現状、そして後継者確保の困難さが農地の減少の原因の一つとなっていると考えられる。
- ・しかし、農業は市の主要な産業であり、市民の安全安心な食生活を支えるとともに、農地の防災機能や景観の向上に貢献しており、農業を営む農家や農地面積の減少をくいとめる必要がある。

## 農業の稼ぐ力の向上

- ・農産物の販売は現在、庭先直売所などによる消費者への直接販売が中心となっている。
- ・市民（消費者）の小平産農作物の購入ニーズを一部満たしているものの、商圈が狭く、購入機会を得ることができない消費者も存在している。
- ・より安定的で高価な販売先を開拓することにより、高い農業収入を得ている農家も存在する。
- ・小平産の高品質な農作物の生産を収益につなげ、また、消費者の小平産農作物の購入ニーズを満たすため、ブランド化や販路開拓等のマーケティングを進めていく必要がある。

# 取り組むべき課題

## 担い手の確保

- ・ 少子高齢化による人手不足は農業分野においても重要な問題。
- ・ 特に、農業は体力面や時間的拘束等での負担が大きく、また、不動産収入や他の業種に就労した場合の勤労報酬の方が多くの収入を得られる場合が多いという現状から、後継者不足、担い手不足はより一層深刻な問題となっている。
- ・ 後継者が不在の場合相続税等の税負担が大きくなり、農地の減少の主要な原因となっている。
- ・ このため、後継者をはじめとする農業の担い手の確保が重要となっている。

## 市民が農業と関わる機会の提供

- ・ 市民の小平産農作物の購入意欲や農業体験、市民農園を通じた農業への関心は非常に高くなっており、農家側も農作物の販売を通して市民と交流することへの意欲が高くなっている。
- ・ 援農ボランティアをはじめ、繁忙期の人手不足の解消の観点からも、市民が農業にかかわり農業技術を身につけることは、担い手不足の解消にもつながる。
- ・ さらに、消費者との交流をとおして、売れる農作物の生産を行ったり、農業を行う上で生じる周辺住民との問題の解決にもつなげたりすることができる。

# 取り組むべき課題

## 緑と農地と共存した住環境の維持

- ・市民の緑と農地と共存した小平市の住環境への評価は非常に高く、市民の満足度に貢献するほか、居住者を呼び込む上でのポイントとなっている。
- ・事業所にとっても自然環境の豊かさが企業立地上のメリットとなっている。
- ・農地の防災機能や景観向上の観点からも、農地と住宅地が一体となった環境を維持することが、小平市の価値の向上につながる。

## 目指すべき将来像

農業と協働してつくる、  
“しよく（食・職）”が  
豊かなまち こだいら

# 基本方針

雇用や所得・税収を生み出す基盤となる農業振興

住む人・働く人の暮らしを支え、豊かにする農業振興

# 農業振興の目標

## 農業生産と経営の改善、向上

- ・ 農業収入の増加や後継者確保のため、農業生産の生産性の向上と経営改善を目指します。そのため、認定農業者を増やすとともに、経営改善計画の効果測定と見直しを進めます。また、マーケティングの視点を導入し、農業の省力化や安定的な生産、農作物のブランド化や六次産業化、販路開拓を進め、収益の増加を目指します。

## 担い手の育成

- ・ 小規模農家を中心に、農業の後継者確保ができていない状況が生じています。後継者の不在は相続時等に農地の減少を招く原因となるため、後継者の確保が必要となっています。また、人手不足の解消や農作業の負担軽減、収益性の向上のため、女性や若者、さらに市民やNPO、法人組織による農業の担い手の育成、確保を目指します。

## 農地の保全と有効活用

- ・ 農地面積を維持するとともに、良質な農地として保全するため、肥培管理の技術向上と啓発を行い、農地を保全します。また、農地の持つ防災機能や景観向上の機能を活かすため、災害時に必要とされる機能の充実や農のある景観のPRを行い、農地の価値の認知度向上を目指します。

# 農業振興の目標

## 農業と市民の交流の促進

- ・小平産農作物の購入を通じた農業者と市民の交流機会を増やすため、直売所や小平ファーマーズ・マーケットの充実を図るとともに、購入機会拡大のための取組を行います。また、農業体験や市民農園、援農ボランティアの活動、イベント等を通じて、市民の農業との関わりのニーズを充足するとともに、農業に対する理解を促し、市民と協働して維持する農業を目指します。さらに、今まで市内農業に関わる機会の少なかった企業従業員を小平産農作物の消費者、さらには市内農業振興の担い手として取り込むことを目指します。

## 緑と農地と共存する、暮らしやすいまちを実現する

- ・市民から高い評価を受けている、緑と農地と共存する小平の魅力を維持し、暮らしやすいまちを実現し、市民や事業所の満足度の向上、市内居住、事業立地のメリットとしての価値を高めます。このため、農のあるまちづくりをより一層推し進め、関係団体との連携、農業を通じた地域交流やコミュニティの形成を目指します。

# 計画の体系図

## 農業振興の課題

農家、農地の減少を止める

農業の稼ぐ力の向上

担い手の確保

市民が農業と関わる機会の提供

緑と農地と共存する住環境の維持

## 農業振興の方針・目標

雇用や所得・税収を生み出す基盤となる産業振興

農業生産と経営の改善、向上

担い手の育成、確保

農地の保全と有効活用

農業と市民の交流の促進

緑と農地と共存する、暮らしやすいまちを実現する

住む人・働く人の暮らしを支え、豊かにする産業振興

## 重点施策

計画的な都市開発

生産緑地の確保の検討

農業経営支援

認定農業者の育成

地産地消の促進

後継者の育成

女性・若者の就農支援

多様な農業体験の場の提供

農地の多機能化の促進